

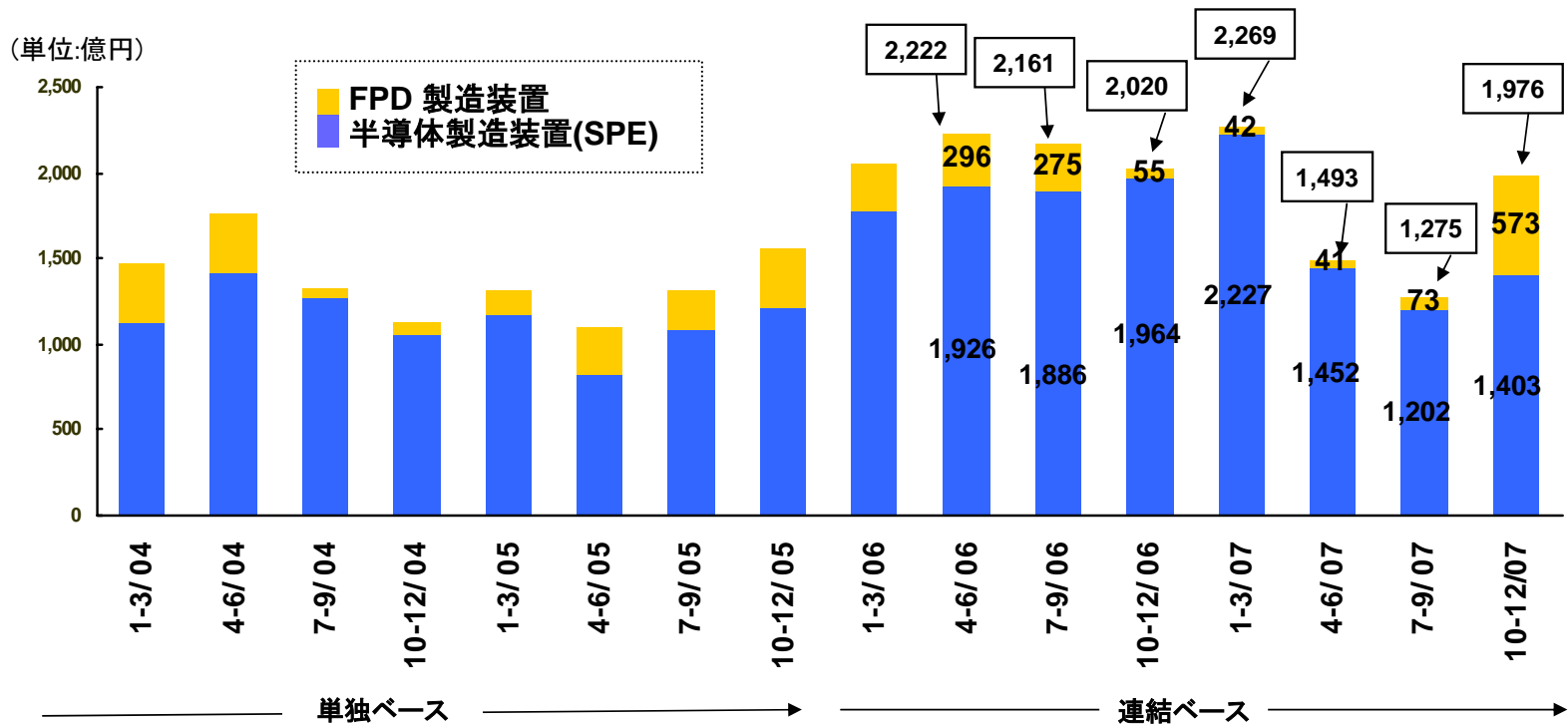
当社を取り巻く事業環境

代表取締役社長 佐藤 潔

2008年2月5日

四半期 SPE+FPD受注額

▶▶ FPD製造装置の受注が急回復



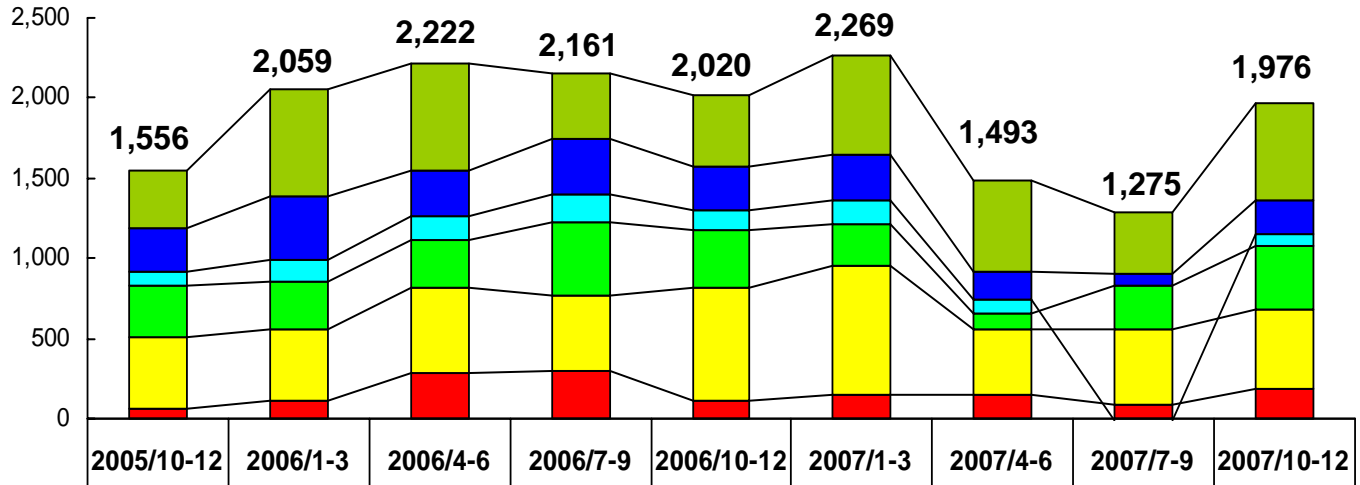
- 2005年10-12月期までは単独ベース、2006年1-3月期より連結ベース
- 単独ベースと連結ベースの主な差異：連結ベースは海外現地法人におけるポストセールス受注を含む



四半期 地域別 SPE+FPD受注額

▶▶ 国内および韓国顧客からの受注が大幅に伸長

(単位: 億円)

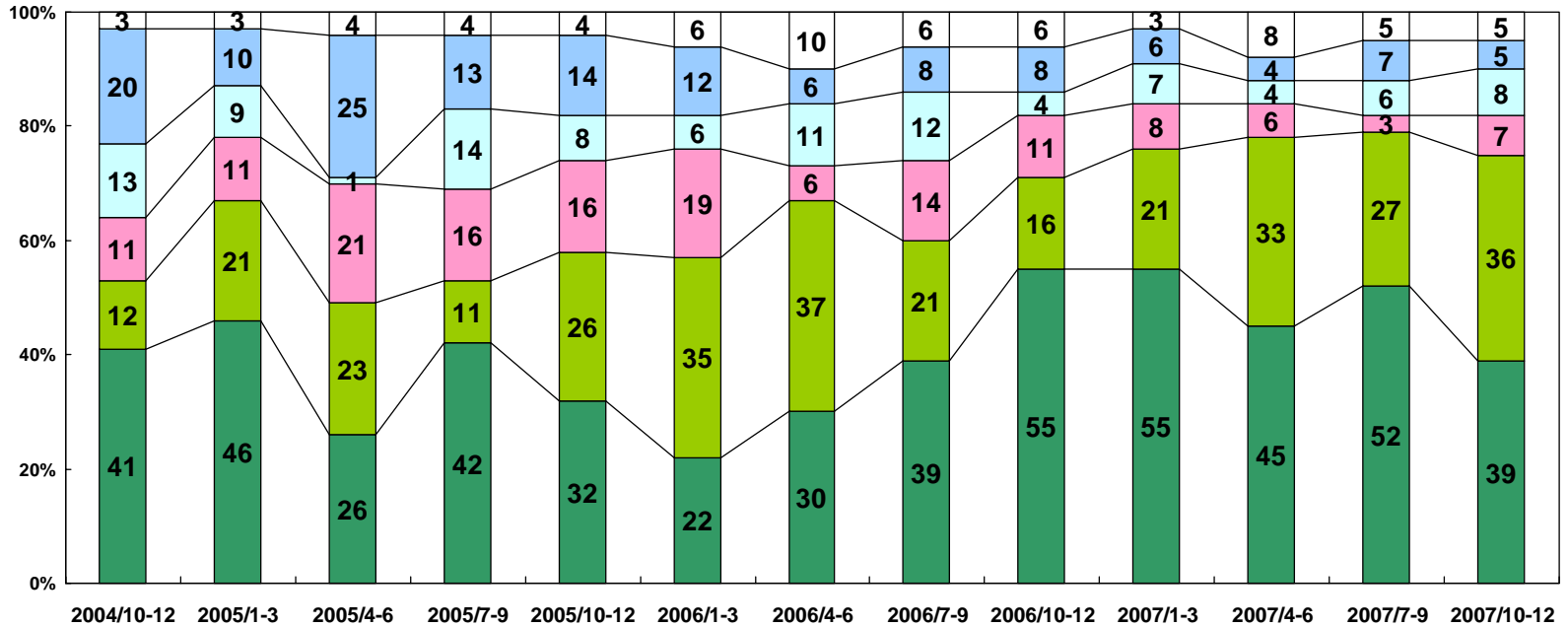


■ 国内	367	666	677	414	451	624	578	378	615
■ 米国	264	399	285	344	264	283	172	81	204
■ 欧州	91	139	145	175	130	149	86	-8	73
■ 韓国	324	290	301	456	353	257	99	268	399
■ 台湾	445	457	529	476	710	804	409	470	498
■ 中国・東南アジア他	62	106	282	293	109	150	147	86	185

●2006年1-3月期より、受注額を連結ベースで表示しています。



四半期 アプリケーション別SPE受注 (本体のみ)



- その他
- システムLSI
- ロジックファウンドリ
- MPU、ハイエンドロジック
- Flashメモリ
- DRAM

(メモリ内訳は当社推定を含みます)



2008年3月期も最高業績更新へ

▶▶ 連結売上高、連結利益ともに従来通り、最高業績を更新する見込み

(単位:億円)

	2007年3月期		2008年3月期		
	通期	上期(実績)	下期(見通し)	通期(見通し)	対前年増減
売上高	8,519	4,763	4,237	9,000	+5.6%
SPE	6,426	3,792	3,428	7,220	+12.4%
FPD	1,007	436	244	680	- 32.5%
EC/CN	1,074	532	558	1,090	+1.4%
その他	11	2	8	10	- 10.8%
営業利益	1,439 (16.9)	950 (19.9)	650 (15.3)	1,600 (17.8)	+11.1%
経常利益	1,439 (16.9)	957 (20.1)	683 (16.1)	1,640 (18.2)	+13.9%
税前利益	1,444 (17.0)	982 (20.6)	658 (15.5)	1,640 (18.2)	+13.6%
当期純利益	912 (10.7)	624 (13.1)	416 (9.8)	1,040 (11.6)	+14.0%

() 内は売上高利益率%

SPE: 半導体製造装置, FPD: FPD製造装置, EC/CN: 電子部品/コンピュータ・ネットワーク



調査会社の2008年 成長率予想

	半導体市場	半導体前工程 設備投資
WSTS	+9.1%	-
iSuppli	+7.5%	-
Gartner Dataquest	+ 6.2%	-10.2%
VLSI Research	+7.5%	-5.9%
SEMI	-	-4.9%

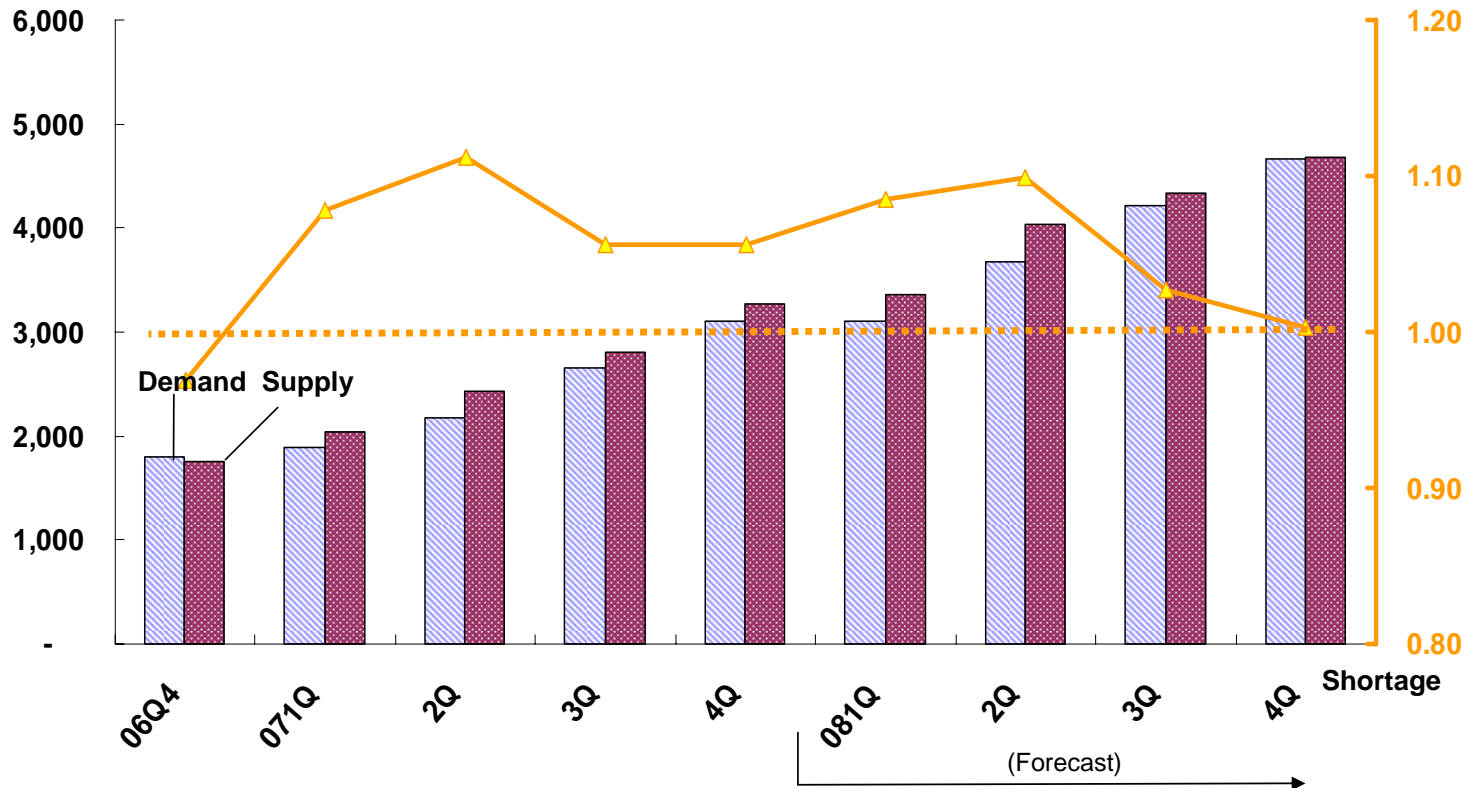
As of Jan 2008

08年のDRAM需給バランス予測

▶▶ CY08後半より需給バランスの改善を見込む

(512Mb換算個数:M)

(Supply / Demand)
Over supply



※需給バランスの算出にあたり、Supply側の工場稼働率を100%と仮定しています。

出所: 調査会社のデータをもとにTELマーケティングにて作成 7



2008年の事業環境予想

▶ 半導体設備投資

- DRAM: チップコスト低減のための微細化投資は継続される。
ただし、年前半までは需給ギャップ調整期がつづく。
- NAND: 強い需要に下支えされ、設備投資は順調に継続。
- LOGIC/ファンダリ向け: 2008年後半より、電子機器需要拡大に向けて最先端設備増強が期待される。

2008年の半導体設備投資は、10%程度のマイナス成長を見込む。

▶ FPD設備投資

- デジタルTVの需要拡大に向けて、大型基板向け装置を中心に受注は回復

2008年のFPD設備投資は、40%前後のプラス成長を見込む。



2008年の課題

短期的な調整期入りにあたり

固定費の抑制、人材配置および外注業務の適正管理

研究開発・製品開発の強化

来るべき飛躍の年に向けて、研究開発を加速中。
成長投資(R&D, M&A等)及び生産性向上のための投資は
項目を厳選し、市場減速局面でも緩めない。

モノ作り力の強化

サプライチェーン・マネジメントの再構築

- ・九州コータ／デベロッパ新工場の立ち上がりが順調。
- ・2010年の宮城工場稼働に向けて、生産改革が進行中

次の成長局面に向けてグループ全体で改革を推進させる



サマリー

- ◆ 今下期売上はやや弱含むものの、当期業績は通期ベースで大きな変更はなく、最高業績を更新できる見通し。
- ◆ SPE事業環境： 調整期に入るが、DRAM微細化投資およびNAND Flash量産投資は順調に継続。2008年後半からの本格回復に期待。
- ◆ FPD事業環境： 受注は第3四半期より回復し、2008年の設備投資は40%前後のプラス成長となる。
- ◆ TELは次のサイクルのピーク時に、更に大きな成長を目指す。調整期入りは、次の飛躍への好機であり、備えの時期として重要な意味を持つ。固定費増加を最小限に抑えつつ、研究開発投資の案件は厳選して継続させ、生産改革のための投資は緩めない。

